

## 1. 単元名 アンケート作成・記者トレ

## 2. 本時の概要

本時は、中1での「個人の興味の探究」から、中2で予定されている「社会問題と関連付けた探究」および「他者との協働」へと学習を深めるための過渡期に位置づけられる。前半では、情報の収集・分析スキルを養うため、Google フォームを用いたアンケート作成を行う。特定のテーマ(学習または学校生活)に基づき、目的と仮説に合致した質問項目を設計することで、客観的なデータ収集の方法を学ぶ。

後半では、1月に実施される社会問題に関する講演会や、その後の事後学習(新聞づくり)を見据え、アウトプットスキルの向上を図る。具体的には、毎日新聞社と共同開発された教材「記者トレ」を用い、文章の「顔」となる見出し作成の技術を習得する。情報を整理し、読み手の関心を引くタイトルを付ける力は、これまでのLIFEログや調べる学習コンクールでの経験を統合し、発信力を高めるために不可欠なスキルである。本時を通じて、論理的な思考に基づく情報の収集から、効果的な表現を用いた発信までの一連の流れを体験させ、次年度のより高度な探究活動への意欲と基礎能力を育むことをねらいとする。

## 3. 本時の目標

- **LIFEログの意義と方法の理解:**「LIFEログ」の意義とルーブリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **アンケートの設計:**アンケートの目的と仮説を再確認し、二重質問や誘導尋問を避けるなどの作成ルールを遵守しながら、Google フォームで適切な設問(3問以内、ラジオボタン形式)を設計することができる。
- **見出しの重要性とタイトルの考案:**「記者トレ」の映像視聴とワークを通じ、文章の要点を端的に表す「見出し」の重要性を理解し、読者が内容を理解しやすく興味を引くようなタイトルを主体的に考案できるようになる。

## 4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
  - 授業スライド 第24回
- 使用教材(副教材):
  - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
  - 毎日新聞社編『記者トレ』毎日新聞社

## 5. 本時の展開

| 時間     | 学習活動                                                                                            | 指導上の留意点・教員の支援                                                                        |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 【1時限目】 |                                                                                                 |                                                                                      |
| 5分     | 導入:本時の流れと目的の確認<br>本時の3つの柱(アンケート作成、LIFEログ、記者トレ)について説明を聞く。これから学ぶスキルが、1月の講演会や中2での探究活動にどう繋がるかを理解する。 | ・全体の構成を明示し、見通しを持たせる。<br>・中2での「個人から社会へ」「他者との協働」というテーマを提示し、動機付けを行う。                    |
| 10分    | アンケート作成のルール確認<br>良い例・悪い例を比較し、アンケート作成の留意点を学ぶ。テーマの限定、設問数(3つ)、選択肢(5択のラジオボタン)などの技術的制限を理解する。         | ・二重質問や誘導尋問などの「悪い例」を提示し、生徒に問題点を考えさせ、指名して発表させる。<br>・回答率を下げる要因や、データの偏りを生む表現について注意を促す。   |
| 20分    | アンケートフォームの作成<br>グループに分かれ、前回の仮説に基づきGoogle フォームを作成する。目的を達成するための必要最小限の設問を考え、入力作業を行う。               | ・机間巡視を行い、各班のフォームが目的や仮説と整合しているか、ルールを逸脱していないかチェックする。<br>・前回の欠席者が孤立しないよう、適切にグループへ合流させる。 |
| 10分    | 試行調査と相互フィードバック<br>隣の班のアンケートに実際に回答し、感想を伝える。回答しやすさや、不快な質問がなかったかを確認し合い、フォームを改善する。                  | ・回答時間は3分程度とし、その後具体的な感想を伝え合うよう促す。<br>・「何に答えれば良いかが明確か」等の観点に基づき、客観的な視点を持たせる。            |
| 【2時限目】 |                                                                                                 |                                                                                      |
| 10分    | LIFEログによる自己リフレクション<br>スクールタクトで12月の課題を開き、今月の活動を振り返る。文字サイズは変更せず、4～5行を目安に文章を記述する。                  | ・本文の文字サイズは自動調整されるため、設定を変更しないよう指示する。<br>・内容の充実している生徒には、ページの複製による追加記述も認める。             |
| 20分    | 記者トレ(STEP2:見出しをつけよう)<br>見出しの重要性について説明を受け、映像を視聴する。文章の「顔」としての見出しの役割を学び、記者トレSTEP2の初級・中級編に取り組む。     | ・1月の講演会後に優秀作品が新聞に掲載される可能性を伝え、意欲を高める。<br>・映像(05:24～11:08)を視聴させた後、周囲と見出しを見せ合う時間を設ける。   |
| 15分    | 記者トレ応用編とまとめ                                                                                     | ・映像(11:09～22:12)を活用する。18:27以降の上級編は、進度や時間に応じて適宜調整する。                                  |

| 時間 | 学習活動                                                          | 指導上の留意点・教員の支援                    |
|----|---------------------------------------------------------------|----------------------------------|
|    | 中級から上級の見出し作成に挑戦する。解答例を確認し、自分の見出しと何が違うのか、どのような表現が効果的だったかを考察する。 | ・見出しは文章を読みたくさせるポイントであることを再認識させる。 |

---